

それでは、もう 1 題、次の例題で、ストークスの定理の問題を解いて、この定理にも慣れてもらうことにしよう。

**例題 7** 空間ベクトル場  $\mathbf{f} = [-2y, 3x, 0]$  において、 $xy$  平面上に原点を中心とする半径 2 の閉曲線 (円)  $C: x^2 + y^2 = 4 (z=0)$  があり、 $C$  に囲まれる  $xy$  平面上の曲面 (円) を  $S$  とおく。このとき、ストークスの定理： $\iint_S \text{rot } \mathbf{f} \cdot \mathbf{n} dS = \oint_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r}$  ……(\*) が成り立つことを確認しよう。ただし、 $S$  に対する単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  の  $z$  成分は正とする。

(i) (\*) の左辺について、

空間ベクトル場：

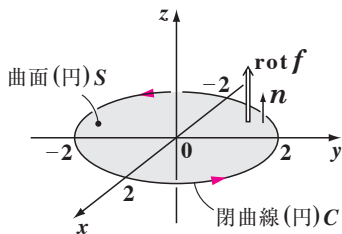
$\mathbf{f} = [-2y, 3x, 0]$  の回転

$\text{rot } \mathbf{f}$  を求めると、

$\text{rot } \mathbf{f} = [0, 0, 5]$  ……① となる。

$\text{rot } \mathbf{f}$  の計算

$\frac{\partial}{\partial x}$	$\frac{\partial}{\partial y}$	$\frac{\partial}{\partial z}$	$\frac{\partial}{\partial x}$
$-2y$	$3x$	$0$	$-2y$
$3 - (-2)$	$[0 - 0,$	$0 - 0,$	



また、右上図より、曲面 (円)  $S$  は  $xy$  平面上の円より、この単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $\mathbf{n} = [0, 0, 1]$  ……② である。よって、①と②の内積を求めると、

$\text{rot } \mathbf{f} \cdot \mathbf{n} = [0, 0, 5] \cdot [0, 0, 1] = 0 \times 0 + 0 \times 0 + 5 \times 1 = 5$  (定数) となる。

よって、

((\*) の左辺)  $= \iint_S \text{rot } \mathbf{f} \cdot \mathbf{n} dS = 5 \iint_S dS = 5 \times 4\pi = 20\pi$  ……③ である。

5 (定数)

$S$  は半径 2 の円より、  
この面積は  $\pi \cdot 2^2 = 4\pi$

(ii) (\*) の右辺について,

$$\begin{aligned} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} &= [-2y, 3x, 0] \cdot [dx, dy, dz] = -2ydx + 3xdy + \cancel{0 \cdot dz} \\ &= -2ydx + 3xdy \cdots \cdots \textcircled{4} \text{ となる。} \end{aligned}$$

よって, ④を(\*)の右辺に代入すると,

$$((*) \text{の右辺}) = \oint_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} = \oint_C (-2ydx + 3xdy) \cdots \cdots \textcircled{5} \text{ となる。}$$

ここで,  $xy$  平面上の閉曲線(円)  
 $C$ は, 原点を中心とする半径2の  
 円より,  $x$  と  $y$  は媒介変数  $\theta$  を用  
 いて,

$$\begin{cases} x = 2\cos\theta \\ y = 2\sin\theta \end{cases} \cdots \cdots \textcircled{6} \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

とおける。ここで,  $dx$  と  $d\theta$ , お  
 よび  $dy$  と  $d\theta$  の関係を求めると,

$$dx = \frac{d(2\cos\theta)}{d\theta} d\theta = -2\sin\theta \cdot d\theta, \quad dy = \frac{d(2\sin\theta)}{d\theta} d\theta = 2\cos\theta \cdot d\theta \text{ となる。}$$

よって, ⑥とこれらを⑤に代入すると,

$$((*) \text{の右辺}) = \int_0^{2\pi} \underbrace{(-2 \cdot 2\sin\theta)}_y \cdot \underbrace{(-2\sin\theta)}_{dx} d\theta + 3 \cdot \underbrace{2\cos\theta}_x \cdot \underbrace{2\cos\theta}_{dy} d\theta$$

$$= \int_0^{2\pi} \left( 8 \cdot \sin^2\theta + 12 \cdot \cos^2\theta \right) d\theta$$

$$\left( \frac{1}{2}(1 - \cos 2\theta) \right) \quad \left( \frac{1}{2}(1 + \cos 2\theta) \right)$$

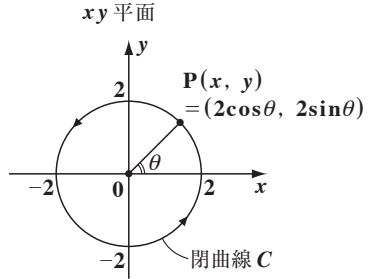
半角の公式

$$\begin{cases} \sin^2\theta = \frac{1 - \cos 2\theta}{2} \\ \cos^2\theta = \frac{1 + \cos 2\theta}{2} \end{cases}$$

$$= \int_0^{2\pi} \{4(1 - \cos 2\theta) + 6(1 + \cos 2\theta)\} d\theta$$

$$= \int_0^{2\pi} (10 + 2\cos 2\theta) d\theta = [10 \cdot \theta + \sin 2\theta]_0^{2\pi}$$

$$= 10 \cdot 2\pi + \cancel{\sin 4\pi} = 20\pi \text{ となる。} \leftarrow \textcircled{\text{(i) の結果③と一致する。}}$$



以上 (i)(ii) より, (\*) のストークスの定理が成り立つことが確認できたんだね。

これで, 数学的準備も整ったので, 次章から本格的な電磁気学の講義に入ろう。